

ふれあい

2015.8

Vol. 8



日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団
豊美会

田代台病院 ・精神科・神経内科・内科

発行責任者：院長 河野佳宣 〒754-0122 山口県美祢市美東町真名2941番地 TEL 08396-5-0301 FAX 08396-5-0861

病院理念

心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。

看護理念

「和」の精神のもと、患者・家族・地域の皆様の期待に応えられる看護を提供します。

日本医療機能評価機構
認定第 JC1735 号

田代台病院は、よりよい医療を提供していくために、日本医療機能評価機構の認定を取得しています。

7月末を以って中邑義継が院長職を退き、8月より後任として河野佳宣が院長に就任いたしました。なお、中邑前院長は理事長職に専任いたします。

院長就任にあたって

院 長 かわの よしのぶ
河野 佳宣

日本の総人口は、平成25年現在、1億2730万人です。我が国では世界で類のない速さで高齢化が進み、総人口の4人に一人が65歳以上となっています。美祢市では日本の平均より高齢化がさらに進んでおり、高齢者の方々が住み慣れた地域で生きがいを持って暮らせるよう関係者の一体となった取り組みが必要です。田代台病院では高齢者を中心に精神疾患の治療を行っています。認知症の患者さんが最も多く入院されており、精神症状のために自宅や施設で生活が難しくなった人たちの治療を行っています。

認知症は決して恐れる病気ではありません。たとえ精神症状があったとしても多くの患者さんは飲み薬などの治療で問題となる症状は軽減します。しかし、家庭などで精神症状が原因で家族と良い関係が保てなくなった場合、入院治療を考えなければなりません。早く治療を始めれば早く症状は改善します。精神症状が強く入院が必要となった場合でも、8割以上の患者さんは3か月以内に精神症状が落ち着き、自宅など生活の場が確保できれば退院可能な状態になります。入院することで環境を整え、多くの専門家が関わり治療することで症状は改善します。家族が患者さんを思うあまり頑張りすぎて疲弊することは、精神症状にとって良いことではありません。患者さんと家族を支えるしくみを行政、病院、施設、そして一般住民などが協力して地域全体で作っていく必要があると思います。

認知症治療病棟（西病棟1階・2階）

人と人とのふれあいを大切に 看護・介護を行っています

☆認知症治療病棟とは

認知症を患っておられる患者さんが入院されている病棟です。ここでは、大声を出して怒りっぽくなったなどの精神症状（興奮・妄想・幻覚等）、家の周囲を歩き回る、昼夜逆転の生活になるなどの行動障害（徘徊・介護抵抗・睡眠障害・不潔行為等）が強くなって家庭や施設での生活が困難な場合に、集中的に医療・看護・リハビリ（作業療法）を行うことで症状の軽減と安定を図ることを目的としています。



☆日常の様子は

入院生活は、患者さんが日常生活（食事・入浴・排泄・更衣・整容など）の中で、自分で行うことが困難なところを支援しています。医師をはじめ看護職員、作業療法士、看護補助者、薬剤師、精神保健福祉士、栄養士など多職種が連携をとりながら、患者さんのペースに合わせ生活リズムを整え、精神安定が図れるようにケアを行っています。

☆こんな生活リハビリ（作業療法）をしています



入院生活はどうしても単調になりがちです。そこで作業療法士を中心に生活リハビリ（作業療法）を行っています。患者の皆さんに集まっていただき、「北国の春」体操※や懐メロなどの歌、ゲームを中心に機能訓練を行ったり、患者さんのできることに合わせ、習字やぬり絵、畑作業などの作業療法を少人数で行うなどしています。その際は、患者さんに季節を感じてもらえるような工夫を取り入れるようにしています。



※「北国の春」の曲に合わせて体を動かす当院で考案した体操



☆これからも

このように認知症治療病棟では、患者さんが長い人生を歩まれてきた中で培われた自信と誇りを尊重し、自尊心を大切にしながら関わることで、限られた空間の中でもその人らしく安心した入院生活を送られるように笑顔で対応するように心がけています。そして1人1人に目を向け、寄り添い、患者さんの心と体の健康を見守っています。

私たちは、患者さんの症状が軽減し、安定することを願いながら看護・介護に日々努めています。



認知症 ケアのポイント

今回の テーマ

【認知症と便秘の関係】

田代台病院 精神科看護・介護勉強会 認知症部会

認知症の人は、便秘であってもそれをうまく伝えることができません。認知症における便秘対策は、介護者にとっても介護する際の大切なポイントの1つとなります。

I) 便秘の影響

認知症の人に大きな声やイライラした様子が続く時は、便秘の可能性があります。

これは、便秘による不快感を上手に伝えられず、本人が心身ともにつらい状況であることが考えられます。



II) 便秘のとき、または便秘予防に介護者が行うと良いこと

- お腹を時計回りに「の」の字を書くようにマッサージを行いましょう。
- 1日に水分を最低500ml以上摂ってもらいましょう。
- その人自身のペースに合った散歩など適度な運動を、一緒に行いましょう。
- しっかりと睡眠に適した環境（照明・温度・音等）をつくり、睡眠を促しましょう。



III) 便秘のときや便秘予防に食べると良い食材

野菜、海藻、豆類、芋類、果物などに含まれる食物繊維や乳製品には、水分を吸収し、便をやわらかくする効果があります。

食物繊維には、比較のお腹が張ったり、お腹の痛みを伴わない特徴があります。認知症の人に違和感を与えない利点からも、認知症の人の便秘対策には最適であるといわれています。



上記の方法を行っても改善が見られず、日常生活の中でお腹が張ったり、お腹を痛がっている、また便が何日間も出ない等の症状があるときは、お近くの病院や、かかりつけの医師にお早めにご相談ください。

デイ・ケア
なごみ通信

～散歩 あじさい見物(7月)～



利用者さんには花が好きな方がたくさんおられます。そんな花好きの皆さんが楽しめるこの時期の活動の一つに、紫陽花を見に行く散歩があります。暑い時期の散歩は腰が重くなりがちですが、「紫陽花が咲いてますよ」と伝えたと「そりゃ見に行かんにゃ!」「早よ行こうや」と張り切って外へ。いつもは少し重い足取りも、紫陽花を目指すときは軽やかです!



到着すると、花を手で触りながら「こりゃー大きくて立派じゃ!」「うちの庭にも欲しいね〜」「鉢があったら、庭のお地藏様にあげたいね」と、しばらくの間、鑑賞会や記念写真を撮って楽しみました。戻ってからも笑顔で「綺麗に咲いちよる間にまた連れて行って」と、散歩を満喫されたようでした。



活動の時には「目的(紫陽花やお地藏様参り等)」を設けています。認知症の方も漠然と何かをするより、興味のある目的や目標があればやる気も動きも良くなる場合があります。そして最後は「良かった」と達成感や満足感を持つことで、元気になったり心の安定に繋がることも期待できます。

作業療法士 上田 貴弘

● ● ● ● ● 「第12回田代台病院夏祭り」 ● ● ● ● ●

開催日時：平成27年8月22日(土) 18:00～20:00

開催場所：当院東病棟前広場(雨天時：西病棟ホール等)

今年も催し・露店を用意しております。皆さまお誘いあわせのうえ、お気軽にお越しください。お待ちしております。

医療機能評価の更新認定を受けました

4月に更新(5年ごと)のための審査を受け、「認定」の結果をいただきました。今後も認定病院として、入院患者さんをはじめ、田代台病院を利用される皆様に質の高い医療サービスが提供できるよう職員一同努めてまいります。



編集
後記

テレビ・新聞・雑誌等で、「認知症」が特集されることが本当に多くなりました。それだけ少子高齢化の進む日本にとって身近な疾患であることを実感します。ただ、情報量が膨大になっているため、情報に振り回されすぎないようにすることは、大事かもしれません。(阿部)